

ゴルフ場・公園の大切な松を松くい虫から守る!

サンケイ

スミパイン[®] 乳剤

松を枯らすマツノマダラカミキリを
防除しながらキクイムシ類、ゾウムシ類、
シンクイムシ類、マツカレハなど松の
害虫を同時に防除できます。

キクイムシ類

マツノマダラカミキリ

ゾウムシ類



マツカレハ

シンクイムシ類



サンケイ化学株式会社

殺虫剤

スミパイン[®] 乳剤

有効成分:MEP…80.0%
 安全性:普通物 B類(原体)
 危険物:第5類 危険等級 II

●地上散布における使用方法 適用害虫の範囲および使用方法

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	10アール 当り 散布液量	使用時期	本剤及び MEPを含む 農薬の総 使用回数	使用方法
まつ (生立木)	マツノマダラカミキリ (成虫)	150~200	3L/本 (樹高10m)	成虫の発生初期 及び発生最盛期 直前	6回以内	散布
まつ (衰弱木・ 枯損立木)	キクイムシ類 ゾウムシ類	80~120	—	—		
まつ	マツカレハ	1000~1500				
松類	ハバチ類	1500~2000				
	ハマキガ類	1000~1500	成虫の発生最盛期			
	マツバナタマバエ	250	幼虫期			
	シンクイムシ類	250~500				
	ミスジツマキリエダシャク	1000~1500				
一般樹木 (倒木・ 伐倒木)	カミキリムシ類 (スギカミキリを除く) ゾウムシ類 キクイムシ類	50~150	300~600 ml/m ²	伐倒・風倒直後 樹皮下及び材内 生息期		
	スギザイノタマバエ	50~100	400~600 ml/m ²	樹皮下及び材内 生息期		
	スギカミキリ	100~300		伐倒・風倒直後 樹皮下及び材内 生息期		
一般樹木 (林木)	カミキリムシ類 (スギカミキリを除く) ゾウムシ類 キクイムシ類	50~150	300~600 ml/m ²	成虫の発生初期 又は直前	樹幹散布	
	スギザイノタマバエ	100~200	600ml/m ²			
	スギカミキリ	50~100	400~600 ml/m ²			
	ヤマダカレハ	1000	—	幼虫期	散布	
	エダシャク類 マイマイガ ドクガ類	1000~1500		若令・中令幼虫期		
	スギタマバエ	250~500		虫えい形成期		
	ヒノキカワモグリガ	200~300		成虫の発生直前 ~ 発生最盛期直前 (6~7月)		
さくら	コスカシバ	100~300	—	成虫発生期	散布	
ほだ木	カミキリムシ類	350	—	成虫発生初期 及び産卵期 (ほだ木の 伏せ込み期)	2回以内	散布(ほだ木 及びほだ木用 笠木を同時に 防除する場合 は希釈倍数を 350倍とする)
ほだ木用 笠木		40				

●空中散布における使用方法

適用害虫の範囲および使用方法

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	10アール 当り 散布液量	使用時期	本剤及び MEPを含む 農薬の総 使用回数	使用方法
まつ (生立木)	マツノマダラカミキリ (成虫)	4~6	800ml	成虫の発生直前 より発生最盛期 直前	6回以内	空中散布 (10アール当り 投下薬量が 本剤200ml、 但し微害林では 130~200ml とする。)
		15~45	3~6L			
		60~180	12~24L	成虫の発生初期 成虫の発生初期 及び発生最盛期 直前		空中散布 (単木処理)
		80~160	3L/本 (樹高10m)			
まつ (枯損立木)	マツノマダラカミキリ (幼虫)	80	5L/本 (樹高10m)	幼虫期(秋期)		
	マツノマダラカミキリ (材内生息虫)		5~10L/本 (樹高10m)	成虫の発生前 (春期)		
まつ	マツカレハ	8	800ml			空中散布
		100	6L			
松類	ハバチ類	100~200	3~6L	幼虫期	6回以内	空中散布 (10アール当り 投下薬量は 本剤30~60ml とする。)
			16			800ml
	ハマキガ類	50~100	6L	空中散布 (単木処理)		
	キクイムシ類	40	5L/本 (樹高10m)	成虫の発生初期		空中散布 (10アール当り 投下薬量は 本剤100ml とする。)
	ミスジツマキリエダシャク	8	800ml	幼虫期		空中散布
30		3L				
松類 (風倒木)	キクイムシ類	原液	750ml	成虫の発生直前		空中散布
一般樹木 (林木)	エダシャク類	8	800ml	幼虫期		空中散布 (10アール当り 投下薬量は本剤 60mlとする。)
		30	3L			
	マイマイガ ドクガ類	50~100	3~6L	若令・中令幼虫期		空中散布
		8	800ml	幼虫期		
ヒノキカワモグリガ	30	6L	成虫の発生直前 ~ 発生最盛期直前	空中散布		

●無人ヘリコプター散布における使用方法

適用害虫の範囲および使用方法

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	10アール 当り 散布液量	使用時期	本剤及び MEPを含む 農薬の総 使用回数	使用方法
まつ (生立木)	マツノマダラカミキリ (成虫)	18	3L	成虫の発生直前 より発生最盛期 直前	6回以内	無人ヘリコプター による散布

■スミパイン乳剤の特長

★広範囲の害虫に適用

スミパイン乳剤はマツノマダラカミキリの成虫や幼虫以外にも、松を加害するキクイムシ類、ゾウムシ類、マツカレハなどに有効で、広範囲の害虫の同時防除が可能です。

★多彩な使用方法

マツクイムシ防除では、空中散布における「液剤少量散布」を初め「液剤散布」および「ガンノズル散布方式」、さらに「無人ヘリコプターによる散布」と地上散布だけでなく多目的な使用が可能です。

★耐雨性に優れた製剤

散布されたスミパイン乳剤は樹皮などに速やかに浸透し、散布後の有効成分は降雨による流亡が少なく、安定した防除効果が期待できます。

★確かな安全性

スミパイン乳剤は有効成分を高濃度化した有機溶媒を含まない製剤です。各種の試験において本剤の安全性が確認されています。

■使用上の注意事項

(共通事項)

- ・アルカリ性の強い農薬との混用はさけてください。
- ・ヒノキに対しては個体によって落葉、枯損にいたるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布してください。
- ・対象樹種がヒノキの場合、一部のヒノキで落葉現象が生じることがあるので、あらかじめ切枝に薬剤を散布し、落葉が生じない樹であることを確認の上、散布してください。
- ・本剤によるマツノマダラカミキリ成虫防除は後食防止を目的とするので、成虫発生直前または発生初期に時期を失しないように散布し、更に20日後(成虫発生最盛期直前)にもう一度散布すると効果的です。
- ・マツノマダラカミキリ成虫に対する150~200倍液の地上散布および空中散布の単木処理をする場合、散布液量は樹高10mの松1本当り3Lを標準とし、木の大きさにより適宜増減し、樹冠部を中心に全面に散布してください。
- ・本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意してください。
- ・水源地、飲料用水、養魚池、養魚田等に本剤が飛散流入しないように十分注意してください。
- ・散布器具、容器の洗浄水および残りの薬液は河川等に流さず、容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理してください。

(地上散布における注意事項)

- ・本剤による伐倒木処理の場合、厚皮部のカミキリムシ類やゾウムシ類には薬液を多目に散布してください。
- ・本剤による伐倒木処理の場合、降雨直後または雨天の散布はさけ樹皮が雨などで濡れているときは乾いてから散布してください。
- ・さくらのコスカシバに対しては、その発生に応じて2~3回散布してください。

(無人ヘリコプター散布における注意事項)

- ・本剤を無人ヘリコプターにより散布する場合は、対象松林の梢端が見える場所で行ってください。

(空中散布における注意事項)

- ・空中散布による単木処理の場合は、専用の鉄砲ノズルを用い、対象木の樹冠部を中心に適確に散布してください。また60~180倍液(12~24L/10アール)で空中散布する場合は、限定された地域(林分)を対象として単木処理に準じた方法(鉄砲ノズル)で適確に散布してください。
- ・マツノマダラカミキリ幼虫に対する空中散布の単木処理をする場合、散布液量は樹高10mの枯損立木1本当り5Lを標準とし、木の大きさにより適宜増減し、樹幹と枝にむらなく散布してください。
- ・マツノマダラカミキリ成虫防除(空中散布)の場合の投下薬量は、10アール当り本剤200mlを基準としますが、微害林に使用する場合はその程度に応じて130~200mlの一定量とします。投下薬量は希釈倍数および10アール当り散布液量を所定の範囲内で調節して、所要の薬量になるようにしてください。
- ・本剤を大型散布機(ヘリコプターなど)で使用する場合は、各散布機種種の散布基準に従って実施してください。
- ・本剤を空中散布用薬剤として使用する場合は次の注意を守ってください。
散布薬液の飛散によって他の動植物(特にあぶらな科作物、桑、さといも、ソルゴ等の農作物、養蚕、養蜂)に影響を与えないよう散布区域の選定に注意してください。
本剤を空中少量散布(4~6倍)に使用する場合はさらに次の注意を守ってください。
①微量散布装置以外の散布器具は使用しないでください。
②散布中薬液の漏れないように、機体の散布用配管、その他散布装置の十分な点検を行ってください。
③特定の農薬(混用可能が確認されているもの)を除いて原則として他の農薬との混用は行わないでください。
④散布終了後は次の項目を守ってください。
(a) 使用後の空の容器は放置せず安全な場所に廃棄してください。
(b) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に責任者を決めて保管してください。
(c) 機体の散布装置は十分に洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。



取扱い



サンケイ化学株式会社

本社 〒891-0122 鹿児島市南栄2-9 ☎(099)268-7588(代)
東京本社 〒110-0015 東京都台東区東上野6-2-1 ☎(03)3845-7951(代)
大阪営業所 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-5-1(新栄ビル) ☎(06)6305-5871